

2025 年 12 月 2 日

真庭市議会議長 長尾 修 様

令和 7 年度 真庭市議会ざっくばらんに語ろう実施報告書

報告者（班長） 伊賀 基之

開催日時	2025 年 10 月 25 日（土） 19:00 ～ 21:00		
開催学区名	木山小学校区		
会場名	鹿田公民館		
出席議員	班 長 : 伊賀基之 副班長 : 森脇正和 班 員 : 福島一則、緒形尚、村上善彦、奥侑樹		
参加人数	16 人 (うち議員 6 人)		
発言の種類	発 言 の 内 容	会 場 で の 対 応	備 考
質 問	空き家対策と管理について。特に所有者不明の空き家が増え、荒れ放題となり、虫や蛇が発生し、近隣住民が迷惑している。市として対応できないか。	市は個人の持ち物である空き家について、倒壊等の危険がない限り管理できない。所有者・相続人の責任となる。解体補助金（上限 50 万円）はあるが、費用全体を賄えない。国の帰属法があるが、裁判所の関与などで時間がかかる。	済
要 望	空き地を地域で駐車場などに利用したい場合、市が管理・購入するなど、何らかの対策を取ってほしい。	執行部と話し合い、解決策がないか検討、確認し、後日返答する。	現在住民会で協議中とのこと結論が出た時点で振興局に要望書の提出を提案
質 問	真庭高校看護科の寮において、週末は自宅へ帰らなければならないという規則を改善できないか。	県立高校であるため、整備は県がするべき。土日の帰宅は県の規則（教員が舎監を務めるため）による。寮（白梅寮）は古く、県に改築や移転を要望している。他地域の事例が参考になる。	済
意 見	若者の定着や流出を防ぐために何かできることはないか。	地域活動や意見交換の場（ざっくばらんに語ろうのような場）に、多様な人々（若者、子連れの親、高校生など）をどれだけ呼べるかが重要である。議会としても、市民としても取り組むべき。	済

質問	学童保育の定員オーバーが続き、特に高学年児童が入所できない状況を改善してほしい。既存施設の拡充や近隣の民間遊休施設の活用を検討してほしい。	学童を学校敷地内または隣接地に近づけるよう改善中である。しかし、予想以上に希望者が増えている。アドバイザー事業を始めており、改善に取り組んでいる。	済
要望	子どもの遊び場が不足しており、特に中心地から離れた地区では遊ぶ場所がない。公共施設（公民館など）の空きスペースや隣接する空き地を整備し、Wi-Fi 環境なども含め、地域で子どもたちが自由に利用できる居場所を作れないか。そのための補助金を出してほしい。	ポケットパーク整備事業など活用できる制度がある。	済
質問	鳥獣害対策について、イノシシ、シカ、クマなどが増え、被害が出ている。駆除への補助金（1 頭 1 万円）が安すぎ、ハンターが減っている。補助金を増額できないか。また、空き家が害獣の住処になっている。	真庭市は鳥獣害対策に年間 1 億円以上を支出している。	済
要望	落合総合公園（野球場・多目的グラウンド周辺）の駐車場が非常に不足しており、大会運営に支障が出ている。旧噴水施設を撤去した後のスペース（社会福祉協議会棟前）を駐車場として整備し、20～30 台分のスペースを確保してほしい。	芝生の管理や予算の問題で、市の対応は厳しく、既存施設利用を促している。要望を実現するには、個人ではなく団体（例：グラウンドゴルフ協会）名義で要望書を提出すべきである。	済
要望	県道上山線の鹿田十字路は、大型トレーラーなどの交通量が多く、騒音や安全面で問題があるため、早急に交差点の改良をお願いしたい。	市道ではないため、市から県へ要望として伝達する。騒音の原因となっている段差についても県に修理を求める。	落合振興局担当課・県へ要望伝達
要望	備中川の河川改修について、特に旧鹿田橋がボトルネックとなって水がたまりやすく、鹿田地区が浸水被害の危険に晒されている。河川改修を推進し、橋の架け替えや川幅の拡張をお願いしたい。	備中川は国・県管理の一級河川である。川幅拡張は数十年にわたる計画で、中止しているわけではない。現地を確認し、橋の状況や改修計画について県に問い合わせる。	落合振興局担当課・県へ確認・伝達

質問	自治会長の負担軽減について。市広報誌の配布や各種委員の役割など、自治会長の仕事が増加し、特に高齢の会長にとって負担が大きい。市職員による配布や郵送などを検討できないか。	非常に山奥など極端に離れた家については郵送対応としている。市職員も減少しており、現状全ての配布を職員で行うのは難しい。赤い羽根などの募金活動については、地域によっては自治会費から一括支払いする方式に変えている例がある。	済
質問	墓地の移動を簡単に行えるよう、条例などで対応できないか。山の上にある墓を自宅近くに移したいという要望がある。	火葬が主流であるため、移動の許可は出る。しかし、墓地としての測量や登記、造成にかかる費用は個人負担となるため、費用と手続きの問題であり、市が移動を止めているわけではない。	担当課に確認（墓地埋葬法で規定されているので、市では決められない）

2025 年 12 月 2 日

真庭市議会議長 長尾 修 様

令和 7 年度 真庭市議会ぞっばらんに語ろう実施報告書

報告者（班長） 伊賀 基之

開催日時	2025 年 11 月 1 日（土） 19:00 ～ 21:00		
開催学区名	月田小学校区		
会場名	月田公民館		
出席議員	班 長 : 伊賀基之 副班長 : 森脇正和 班 員 : 福島一則、緒形尚、村上善彦、奥侑樹		
参加人数	17 人 (うち議員 6 人)		
発言の種類	発 言 の 内 容	会 場 で の 対 応	備 考
要望	体育館へのエアコン設置について、猛暑時の体育授業や、避難場所・避難所としての機能（特に冬季）を考えると必要である。せめて網戸だけでも設置して、空気の循環を良くしてほしいとの要望あり。	市の教育委員会の考え方は、断熱構造になっていないため効果が弱くとして、エアコン設置はしない方向である。議員側からは度々要望されており、国の方針も設置推奨である	済
要望	月田公民館について、地域コミュニティの中心地であり、使用回数や使用人数も多く、存続させてほしい。月田公民館のエレベーターの設置と駐車場を整備してほしい。高齢者の利用を考えるとエレベーターが必要である。	市は公民館削減の考えは現在持っていないという答弁が過去にあった。活動が活発な地域には市もしっかり支援していくと言われている。地元の自治会などで話し合い、要望を市に出すのが最善である。	要望書提出を提案
要望	野良猫が増えすぎて困っている。	猫は法律上、犬と異なり行政の保護対象ではない。NPO 法人「まにわアニマルフレンドリー」が不妊去勢手術（TNR）の活動を基本的に無料で実施している。市に問い合わせれば詳細が分かる。 https://maniwa-animal.com/	済

要望	SDGs ツアーの予算を増やしてほしい。個人負担を減らし、コース内容も増やしてほしい。	ツアーの利用希望者が多くキャンセル待ちが出る状況は把握された。市民への理解促進に非常に大事な取り組みであり、当初予算で対応すべきという意見が議員側から出た。市と観光局へ声を伝えていく。	済
要望	木を使った建築物の PR を強化してほしい。特に「月田の木」など、地元の木材活用が見えにくい。	市は新築・改築時の真庭産木材利用への補助金制度がある。執行部に対して、より粘り強く PR を強化するように伝えていく。	済
質問	農地の再利用について、90代の女性が米作り継続に迷っているが、どこに相談すべきか。	農業委員会の「中間管理機構」に相談するのが最善である。担い手不足解消のため、国や県は大規模農業への管理移行を進める方針である。他地区での事例が共有された。	済
要望	市道の草刈りについて、少子化で担い手が不足しており、愛護事業の奨励金だけでは立ちゆかない。また、落石対策や側溝の清掃管理ができていない。市が管理を担当してくれないか。	担い手不足の地区では、シルバー人材センターを利用する方法もある。市道管理は市の責任であり、落石や道路の荒れについては、具体的な場所を振興局に伝えれば対応されるはず。	勝山振興局に確認 指摘された箇所についてはパトロールの強化など対応する。
要望	大阪万博の大屋根リングを、蒜山の「風の葉」のように真庭市に移設利用できないか。	万博木材の一部は、今後立て替える予定の消防署本署に利用する計画が既に執行部から報告されている。大屋根そのものの移設については聞いていない。	済
意見	備蓄食料の入れ替えタイミングについて、賞味期限切れギリギリではなく、3 ヶ月程度前倒しすれば、フードステーションや学校給食に活用できて無駄がない。	貴重な意見として執行部に伝え、検討する。	済
要望	空き家管理について、危険な木や倒木、害獣（たぬき、いのしし）や害虫（蚊、スズメバチ）の問題があり、通学路の安全に不安がある。	個人の財産であるため、行政が勝手に手を出せないのが現状である。解体補助金（上限 50 万円）はあるが、金額が少ない。道路に危険が及ぶような状況になるまで、市は動きにくい。固定資産税以外の課税などの意見も出たが、現状の法律では難しい。	済

要望	若者が市内に残ってくれるような街づくり、特に過疎地への定住促進策を実施してほしい。	全国の過疎地域で進む「関係人口」や「二地域居住」などの外部の力を借りる取り組みを紹介。真庭市は「住みなれた地域で住み続ける」を基本方針としている。教育の魅力化（市内高校への進学率向上や小中連携）が重要であり、市として取り組んでいる。少人数教育の利点を活かすべきとの意見が出た。	済
要望	マニコインのポイント付与を増やしてほしい。ランキング上位や月間・年間での活動実績に対するプラスポイントなどを検討してほしい。	マニアプリは既に 8,000 歩で 1 ポイントなど、様々なポイント付与策を講じている。議員側からもヘビーユーザーとして執行部に提案を続けていく。	済
質問	議員定数について、現状 22 名（前回 24 名から削減）だが、適正な人数についてどう考えているか。	議員間で意見が分かれた。削減すべき（18 人が上限、人口減・財政・デジタル化に対応）との意見や、削減すべきではない（少数の意見の反映、広い地域からの意見収集、過疎地の議員が出にくくなる）との意見が出た。議員報酬が減ると立候補者が減り、マイノリティの意見が反映されにくくなる点も指摘された。	済
要望	統一協会のような特定団体に騙されない対策として、全国に先駆けて宗教教育の充実を図ってほしい。	公立学校では特定の宗教教育はできないが、宗教的情操教育（生命尊重など）は可能であり、政治や宗教に対する基盤となる考え方を持つ教育は非常に重要である。社会不安も背景にあるため、地域での防衛意識も重要。	済
要望	神庭の滝の猿を追い出し、人間が利用できるようにしてほしい。無料にしてほしい。大阪大学教授の講演会をしてほしい。	猿がいることが観光客を呼ぶ側面もある。猿の群れが人間に害を与えないよう、毎日誘導と見守りが実施されている。猿害対策は市全体で対応に追われている状況である。	済

2025 年 12 月 2 日

真庭市議会議長 長尾 修 様

令和 7 年度 真庭市議会ぞっばらんに語ろう実施報告書

報告者（班長） 伊賀 基之

開催日時	2025 年 11 月 15 日（土） 19:00 ～ 21:00		
開催学区名	湯原小学校区		
会場名	二川みらいづくりセンター		
出席議員	班 長 : 伊賀基之 副班長 : 森脇正和 班 員 : 福島一則、緒形尚、村上善彦、奥侑樹		
参加人数	14 人 (うち議員 6 人)		
発言の種類	発 言 の 内 容	会 場 で の 対 応	備 考
要 望	山田藤森間の道路上に木や枯木が出ている。太い枯木が車に落ち、へこんだ事例があった。通行に危険を伴うため対策を望む。	基本的に道路上の木は持ち主（地主/山主）の責任である。公共道路に支障がある場合は、振興局に連絡すれば撤去する。事故の場合も振興局に連絡を。広範囲に「奈良枯れ」による倒木があるため、地区全体の対策が必要という意見は執行部に伝える。	振興局へ伝達 落石、落木についてはパトロールを実施している。
要 望	山林が荒れ放題で整備が進まない。補助事業を利用しようにも、面積が固まらないため、なかなか申請が進まない。	市では森林所有者の集約化や売買・寄付を促進する**「山守プロジェクト」**を実施している。森林組合や農林課、または振興局に相談してほしい。	済
質 問	クマ・サルなどの獣害対策の現状は？	熊対策が不十分であり、通常の散弾では効果がない（ライフルが必要）。ライフル取得は困難であり、猿も含め、地域住民に負担がかからないような補助を充実させてほしい。岡山県は熊については比較的安全な地域と判断している。イノシシやサル対策の防護柵については、市から 50%、県と併用で最大 75%の補助が出る。サルにはワイヤーメッシュと電柵を組み合わせた**「複合柵」**が非常に有効であり、市も材料費補助を行っている。市は鳥獣害対策に年間 1 億 2 千万円を使っている。	済

意見	新聞配達を通じて、地域の高齢化、活動への参加者減少、そして地域が衰退していくことへの寂しさや不安を感じている。	この問題は真庭市全体の課題である。市は移住促進や子育て支援（人口減少抑制）と、住み慣れた地域で暮らし続けられる街づくり（共生のまちづくり）の二面に取り組んでいる。地域の農林業を基幹産業とし、空き家や遊休地を活用するために、移住者や新規就農者を地元が受け入れる仕組みづくりが重要。	済
要望	中山間地域での「消滅集落対策」の成功事例や対策案があれば知りたい。	完璧な対策はなく、結論としては、今活動している人間が協力し、**「低下速度をゆっくり（楽しく見せじまい）」する方向を目指すべき。総務省の「デジタルふるさと住民登録」**制度が今後、地域貢献者の確保につながる可能性がある。	済
意見	議員は「温故知新」（古きを温めて新しきを知る）において、どの時代の知恵を活かそうと考えているのか。また、現代の国民は宗教的知識を欠いており、嘘に騙されている人が増えているため、真庭市から全国に先駆けて宗教学習や嘘を見抜く教育に取り組めないか。	議会の議論は主に合併後の 20 年間の歩みに基づくものが多い。宗教的教養は教育の現場で既に扱われており、情報リテラシー教育は GIGA スクール構想や学習指導要領の改訂で強化されつつある。当会は地域の課題を議論する場であり、深すぎる哲学的・宗教的な議論は趣旨が異なる。	済
意見	湯原中学校の生徒が、高齢者のために「チョイソコ」の運行を土日に拡大すれば、自分たちも手助けができる」と提案していた。	教育の力は大きく、現在の中学生の世代が大人になる頃には、地域社会の景色も変わる可能性がある。若い世代の地域への関心を活かすことが重要である。	済